

モデリングの手順には正解は一つだけとは限りません。しかし工数や精度、リソースの節約の観点から、合理的な手順を考えるのは大きな意味があります。今回はLDrawのcar.datを構成するブロックの3823をモデリングしてみます。

## まだまだかたまり

ブロックをドラッグ&ドロップします。ブロックの大きさを、長さ80、幅40、高さ40にします。次にブロックの傾斜している部分を

作成します。「修正」メニューの「エッジを面取り」を選択します。数値入力エリアに、40、▶20と入力して、エッジAをクリックしてください。黄緑色の の絵のアイコンを押して、面取りを実行します(図1)。

次に、傾斜面のエッジ部分のフィレット(面取り)を作成します。ただこの部分は「エッジをブレンド」コマンドでは作成できません。フィレットの始点と終点部分にある円弧(左側上下のハイライト)を計測すると、どちらも半径10(R10)となっています(図2)。このように始点、終点の半径値が決まっている場合

は「ロフト」コマンドを使用します。ロフトは複数の断面を使用して形状を作成するコマンドです。「作成」メニューの「IntelliShape」から「ロフト」を選択します(図3)。次にブロックの底面の中心点をクリックします(図4)。すると以下のようなダイアログが出てきます(図5)。「穴IntelliShape」でエッジ部分を削り取りますので、「マテリアルを取り除く」を選択します。「マテリアルを取り除く」で、穴IntelliShapeが作成できます。「次へ」ボタンを押してください。何個の図形を使用するかを指定します。2つの図形を使用しますので2と入力してください(図6)。次に、断面のタイプを指定します。断面タイプを「カスタム」ガイドラインを「直線」と選択してください(図7)。「終了」ボタンを押します。すると白

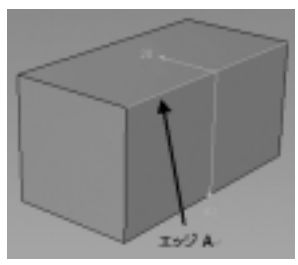


図1

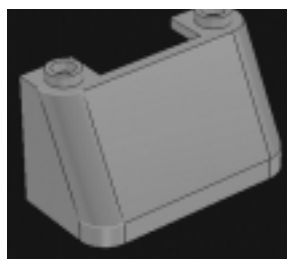


図2



図3

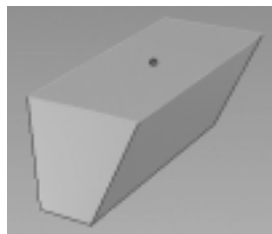


図4



図5



図6

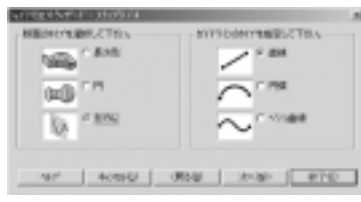


図7

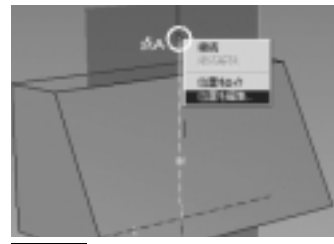


図8



図9

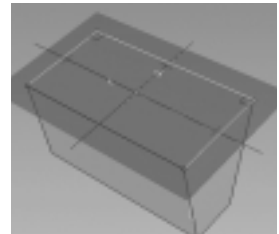


図10

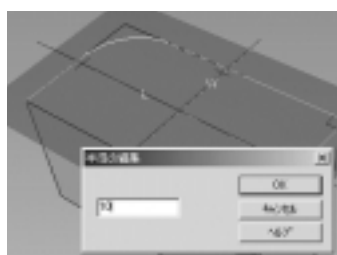


図11

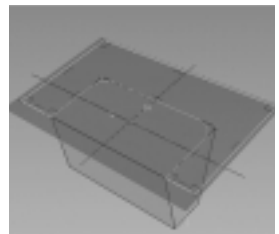


図12

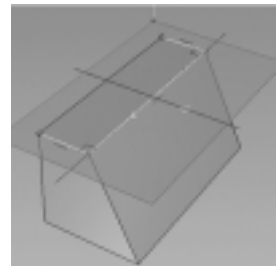


図13

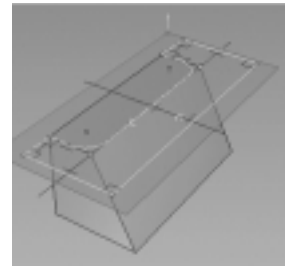


図14